

島根県立大生が経営調査

浜田

年明けに販路拡大策提案



亀谷典生社長（左）から社業についての説明を聞く学生—浜田市長沢町、亀谷窯業

島根県立大地域政策学部の1年生がこのほど、大学がある浜田市内の石州瓦の製造、販売企業で経営課題

を聞き取った。年明けには経営者に販路拡大策を提案する。

調査は久保田典男教授が

開講する演習の一環で12人が参加。浜田市長沢町の「亀谷窯業」で亀谷典生社長から瓦の生産技術を応用してタイルや食器の生産に取り組んでいる現状や、オーストラリアや台湾などを視野に海外へ販路を広げる取り組みを聞き取った。

学生は「海外に商品をどのように売るのか」「従業員の人材確保はどうしているのか」と質問し、若手社員の育成やICT（情報通信技術）の活用が課題と認識した。

調査に参加した座間貴之さん（19）は「経営者に課題解決策を提言するのはかなり難しい。形にできるよう

準備したい」と話した。今後、従業員ら関係者へのインタビューを重ね、課題解決策を探る。

亀谷社長は「若い人はSNS（会員制交流サイト）に精通している強みがある。斬新なアイデアを期待したい」とした。

（宮廻裕樹）